



こどもがこどもらしくいられる社会へ



NPO法人こどもサポートステーション たねとしずく



たねとしずく
こどもサポートステーション



まなぎしの先に、育まれる未来

スタッフインタビュー



すずめ

所属 全体統括

赤ちゃんのころから訪問支援で関わっているご家庭があります。最初に伺ったときは、沐浴をして産着を着せるお手伝いをしていました。それから数年がたち、「絵本訪問」で久しぶりに訪ねると、その子はすっかり幼児に。壁いっぱい自分で描いた絵を貼り、「見て！」と嬉しそうに見せてくれました。大好きな動物が出てくる絵本を見て、何度も「読んで」と言ってくれるその姿がとても愛らしくて……。訪問支援は、まるで親戚のおばさんのように、こどもたちの成長を見守らせてもらえる貴重な時間だと感じています。



みきちゃん

所属 ことばの庭

私を頼りにしてくれているAくんがいます。困ったことがあると、少しずつ話してくれるようになってきました。ある日、ドッチボールやフリスビーを楽しみ、心も体もリラックスしている中で、チーム分けのジャンケンをすることになりました。Aくんが少しもじもじしていたので、「同じチームがいいのかな」と声をかけたところ、「みきちゃん弱いから同じになりたくない」と言われました。自分ではないスタッフと同じチームになりたいと言ったその姿に、私はうれしさを感じました。Aくんの安心できる世界が少しずつ広がり、関係が安定してきているのだと感じたからです。少しずつ離れていく姿にも、確かな成長を感じます。日々の小さな言葉のやりとりや、ユーモアのある関わりが、こどもたちの安心を育てていくのだと思います。



おきょうさん

所属 児童育成支援拠点

こどもたちは外遊びが大好きです。室内で自分の思い通りに遊べないことがあっても、外に出るとすぐに仲間ができて遊びが始まります。異年齢のこども同士で砂遊びをしたり、ボール遊びをしたり。寒空の下でも、乗り物に揺られているうちに眠ってしまう子もいます。普段は家でひとり、スマホゲームやSNSに向き合う時間が圧倒的に長いこどももいますが、この居場所があることで、遊びや様々な人との関わりの中で豊かに育つ力を見せてくれます。スタッフはその育つ力を発揮できる環境の一部となり、安心できる居場所を作ろうと試行錯誤する日々です。



きょうこさん

所属 放課後スペース

キッチンには毎日「今日のごはんなに？」とこどもたちが近づいてきます。カウンターに並んだ食材を見て、今日のメニューを当てる子もいます。まな板で野菜を切る音や、お出汁の匂いにこどもたちは敏感に反応します。ごはんを作っている時間、キッチンにはいろいろな声が聞こえてきます。「昨日から何も食べてへんねん」と言っていた子が、「ほんまにおいしかった、ありがとう」と帰っていった時は、10代応援食堂を続けていきたいと心から思いました。「あれ、また食べたいな」とこどもたちに「次」を楽しみにしてもらえることも、キッチンにいて嬉しい瞬間です。

こどもたちと過ごす日々は、驚きと発見の連続です。スタッフそれぞれが大切にしていることに違いがあるからこそ、何に心を打たれ感動するののかにも違いがあります。「この1年で印象に残ったことはなんですか？」という問いにそれぞれのスタッフが答えました。私たちが大切にしていることを感じていただければ幸いです。



けいちゃん

所属 放課後スペース

スイカ割りや花火大会、クリスマス会など、いくつかのイベントをこちらで企画していますが、最近では当日の進行をユース（若者）に任せることが多くなりました。ある時、スイカ割りの順番をどうするかで揉めていたことがありました。成り行きを見守っていると、普段はヤンチャでみんなをまとめるタイプではない子が、「一回集まるや！誰から行く？一番に行きたい人？」と仕切り出したのです。みんなもその声に集まり、スムーズに順番が決まりました。競技中も積極的に声を掛け、場を盛り上げてくれた彼。いつもとは違う一面を見られた嬉さと、その優しさにとっても感動しました。



ゆうたくん

所属 訪問支援

訪問支援にて、学習メインのサポートに伺いました。実際に行ってみると、学習支援以外にも学校での日常生活の話をしたり、外でランニングやバドミントンをしたりと、さまざまな支援の形があることを知ることができました。また、普段あまり人のお宅へ訪問することがないので、自分以外の家庭の雰囲気を知る機会はとても新鮮でした。生活習慣の違いなどを実際に目にする中で、普段は想像もできなかった風景に触れることができ、今後、他者を理解していく上で非常に役立つ経験になりました。



しーちゃん

所属 ことばの庭

人と話すのが苦手なAさんと、人との距離が近いBさんと一緒に公園へ遊びに行きました。Aさんはフリスビードッジがしたかったのですが、Bさんは乗り気ではありませんでした。しかし、Bさんが「そんなにめっちゃ嫌なわけではないから、やってもいいよ」と言ってくれて、みんなで遊ぶことができました。しばらく遊んだ後、Aさんが私に「次はBさんのやりたいことをやる。さっき俺がしたいことやったから」と言ってくれたのです。お互いに特性を持ちながらも、相手を思いやる気持ちが伝わりとても良い場面でした。



おとちゃん

所属 児童育成支援拠点

日々の食事の場が、こどもにとってどれほど大切なものであるかを日々感じています。食事を通して相手を知って仲良くなったり、笑い合っ温かい空気が流れたりする時間が好きで、私自身も楽しみにしています。特に印象に残っているのは、年末の大掃除の後にみんなで机を囲んで和気あいあいとおやつを食べた場面です。楽しそうに笑い合っている姿を見て嬉しく思うと同時に、いろいろな人がいても、同じものを食べて同じ瞬間を過ごすということは、何物にも代えがたい大切なことなのだ改めて実感しました。

「10代の居場所」放課後スペース事業報告

放課後スペース

1 事業概要

ここは、10代が「何もしない自由」を安心して過ごせる場所です。忙しすぎる日常から離れ、自分の時間を自分で決める経験を重ねることで、こども達は次第に自ら動き出す活力を生み出していきます。スタッフや仲間との対話を通じ、その子が次の一歩を踏み出せるよう、最適な伴走支援を模索し続けています。

2 4つの機能

宿題を頑張りたい日、おなかいっぱい食べたい夜。誰かとわいわい遊びたい時もあれば、たった一人で静かに過ごしたい時もあります。「今日は何もしない」ということも、大切な選択のひとつです。どんな自分もそのまま受け止めてくれる大人がいる。そんな安心感の中で、こども達が自分らしく明日への力を蓄えられる居場所を目指しています。

図書館 「好き」と出会い 世界を広げる

マンガや小説、絵本など約1,300冊を揃えた、こども・若者専用の図書館です。本を読むだけでなく、CDで音楽を楽しんだり、ボードゲームを囲んで仲間と交流したりと、自分の「好き」を自由に深められる場所です。2週間の貸出は、乳幼児の親子が活用することが多いです。好奇心を刺激し、ゆったりと自分を解放できる場所です。



自由な時間を過ごせるようになった
知らない人も話ができるようになった
自分の趣味や好きなことを話せる仲間ができた
頼りになる人ができた
ひとと一緒にご飯を食べるのが楽しいと思えるようになった

自習室 自分らしく 自分のペースで過ごす

1階の賑やかさから離れて、自分の時間に向き合える2階の専用スペースです。タブレットを活用して調べ物をしたり、課題に取り組んだり使い方は人それぞれ。「勉強しても、しなくてもいい」という安心感の中で、誰にも邪魔されず「今の自分」に必要な時間を過ごせます。一人で静かに集中したい時や、心を落ち着けたい時を支える、大切な居場所です。



10代応援 食堂 「食」を通じて 安心を育む

中高生を対象に、毎週火曜・水曜の夜、無料の晩ごはんを提供しています。予約不要で、一人でも気軽に立ち寄れる「ほっとできる場所」を目指しています。空腹を満たすだけでなく、併設の図書館や自習室の利用前後にも利用できる、温かな居場所です。家庭でも学校でもない場所で、共に食卓を囲む安心感を届けます。



4つの機能

学ぶ楽しさを 共に感じる 学習支援 まなびのとびら

学習の遅れや進路の悩みを抱えながら、経済的な理由等で塾へ通えない中高生を対象とした学習支援です。火曜・水曜の夜に開講し、スタッフが一人ひとりの「わからない」に寄り添い、共に解決を目指します。単に教科を教えるだけでなく、学習方法や将来の相談もできる安心の場を提供しており、必要に応じて教材費の補助も行っています。こどもたちが自分らしい一歩を踏み出すための、学びのきっかけを届ける機能です。

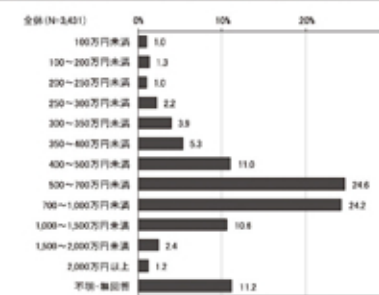


3 「住みたい街・西宮」のこども格差

西宮市は豊かな街というイメージがありますが、中核市でありながら尼崎市や明石市のような「ユースセンター（10代の拠点）」がありませんでした。また、行政の支援も「問題が起きた後の対応」に留まっており、孤立を未然に防ぐ場が足りていない現状があります。

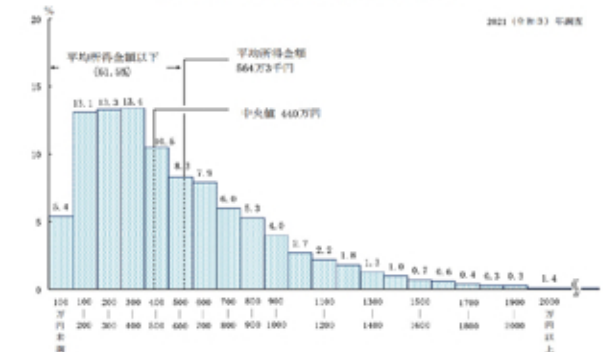
下記に示す世帯収入の分布(左が西宮、右が全国)を見ても、西宮市は平均世帯年収が全国平均に比べても高い傾向にあります。その反面、400万未満の家世も15%ほどあり、これまでの活動の中でも西宮市内の地域ごとの経済格差は大きいと感じます。本庁北東地区の深津中学校付近の地価414,000円/m²に対し、鳴尾地区の鳴尾南・高須中学校付近の地価は197,000円/m²と2倍以上の格差があり、困窮世帯が集まりやすくなっていると推察しています。

図9 差し支えなければ、世帯全体の年間収入についてお答えください。(1つに○)
世帯の年間収入について、不明・無回答を除き、「500~700万円未満」が24.6%と最も高く、次いで「700~1,000万円未満」が24.2%、「400~500万円未満」が11.9%となっています。



引用元：西宮市子ども・子育て支援事業計画作成のためのアンケート調査結果報告書

図9 所得金額階級別世帯数の相対度数分布

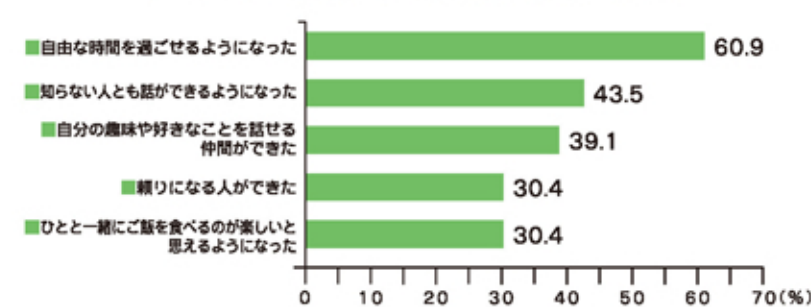


引用元：厚生労働省国民生活基礎調査

4 利用者アンケートから見るこどもの声

放課後スペースにくるこどもたちは何を感じ、どのような困難を抱えているのか。実際に利用してくれているこども（小学5年生以上：23人）に対してアンケートを実施しました。こどもたちの生の声は、「私たちが今、なぜこの活動を続けているのか」という問いへの、こどもたちからの答えでもあります。

ライブラリーを利用し始めて変化したこと (n=23)

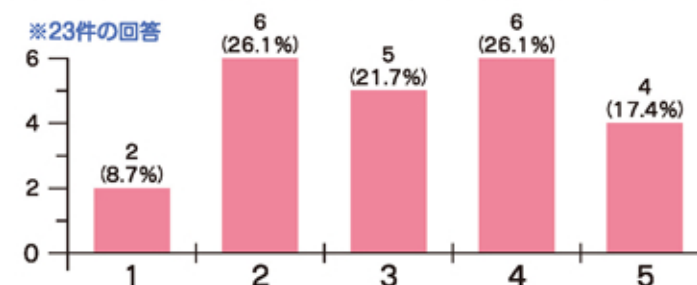


こちらは回答の上位5つを示したのですが、そのほかにも大切な意見として次のようなものがありました。

- おなががすかなくなった…17.4%
- 孤独を感じなくなった…17.4%

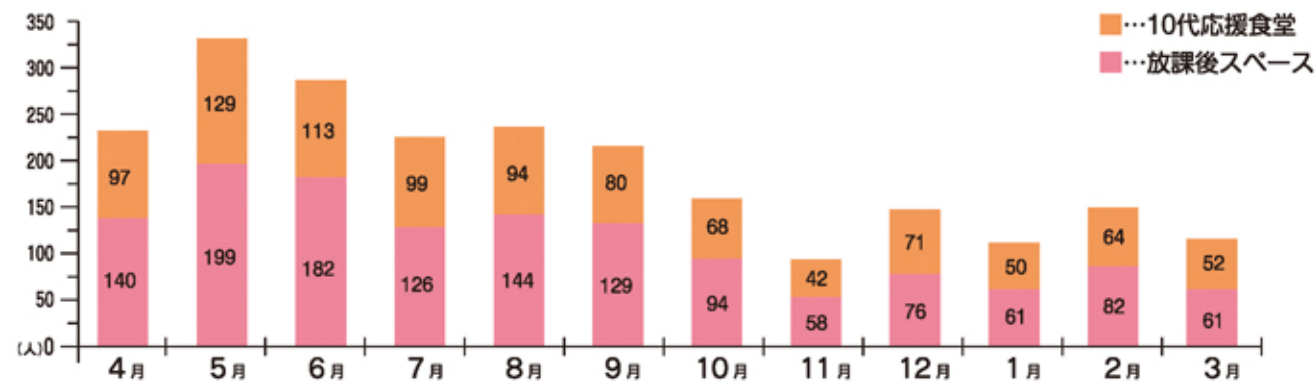
居場所に来ることで、食事の不安が減り、そして何より「ひとりではない」と感じられるようになったこども達もいます。

自分自身をどのくらい好きか教えてください (5がとても好き/1が好きではない)



自分を好きかどうかという問いにはっきり答えられないこども達も多くいます。自由に過ごしたり、誰かと話したりする中で、「ここにいていい」「自分は自分のままでいい」と思えるような経験を積んでほしいなと思います。

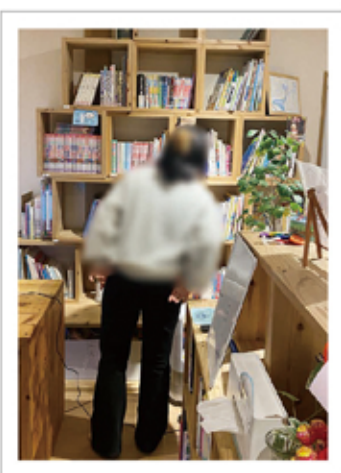
5 今年度の利用データ(のべ人数)



※利用合計…●放課後スペース：1352人 ●10代応援食堂：959人

6 今年度の活動

今年度の活動の様子を写真で振り返ります。スタッフ、ボランティアを始め多くの方々に支えてもらいながら、「経験」「体験」を大切にしています。



何読もうかなーと「読む」のも楽しい



お肉いっぱい！
野菜もいっぱいの夕飯！



調理スタッフも笑顔で
おいおいとクッキング



ジェンダー(性)について
みんなで考える学びの場



線香花火！
季節を感じられるイベントも大切に



落ち着いて学べるのは、
落ち着ける場所があるから

すべての子が、 その子らしく過ごせる場に



西宮の家庭を一つひとつ訪ねる中で出会った、こどもたちを取り巻くたくさんの課題。「自分たちに何ができるのか」を問い続け、試行錯誤の中で産声を上げた居場所は、今年で3年目を迎えました。理想と現実の間で揺れながらも、私たちがスタッフやこどもたちと共に歩み、見つけてきた「これからの居場所」のカチを綴ります。



代表
大和陽子(すずめ)

原点 3年前、私たちが踏み出した一歩

西宮でひとり親家庭への訪問支援を続ける中で、本が一冊もない家庭や、遊びや学びの機会が乏しいこどもたち、親子関係にしんどさを抱える家庭、学校にも居場所のない10代の存在に出会いました。けれど、その子たちが安心して過ごせる場所は、地域にほとんどありませんでした。だからこそ、「それなら自分たちで作ろう」と思ったのです。「ただいるだけでいい」という思いを大切にしながら、本・食事・学び・遊び・相談ができる居場所を、スタッフと悩み、対話を重ねながら、一つひとつ形にしてきました。

変化 葛藤と成長、そして見えてきた景色

開所から1年ほど経った頃、私たちは理想と現実の間で揺れるようになりました。利用が増えるにつれ、「静かに過ごしたい子」と「にぎやかに過ごしたい子」が同じ場にいる難しさに直面し、誰の居場所を守るのか、何度も立ち止まって考えました。「誰のための場所なのか」「どんな子に来てほしいのか」をスタッフで繰り返し話し合う中で、「誰も排除しない」「すべての子がその子らしく過ごせる場でありたい」という軸が少しずつ見えてきました。やがて、こどもたちはそれぞれのペースで安心して、自分のやりたいことを見つけていきました。場もまた、支える側が作るものから、こどもや若手スタッフとともに育てていくものへと変わってきています。今、静かな安心の中から、主体性が芽生えていく風景が確かに見えています。

未来 4年目、その先の「居場所」へ

これからは、地域の中に10代がふらっと立ち寄れる場所が広がっていくよう、そのきっかけとなる役割を担っていきたくと考えています。その中で私たちが目指しているのが、「ケアのある図書館」としてのユースセンターです。本を介して過ごせる場でありながら、こども一人ひとりの背景やしんどさにも目を向け、必要な支援につなげていく場所です。制度のはざまで取り残されやすいこどもたちを見逃さず、地域の中でそっと支え合えるつながりを育てていきたいと思えます。

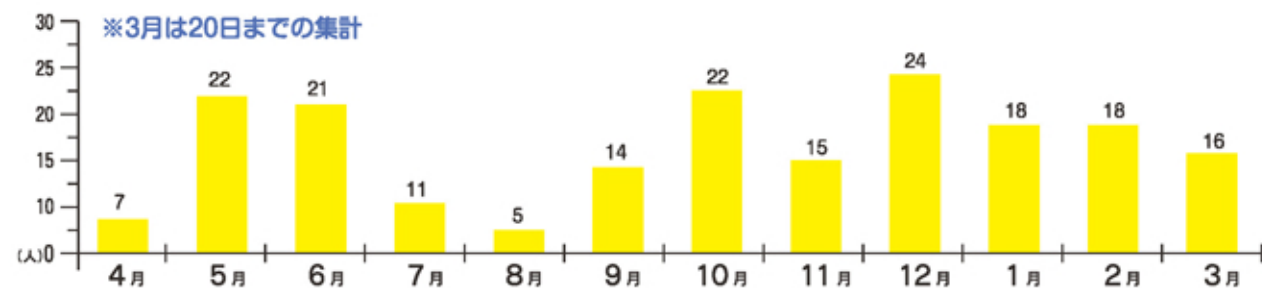
ことばにならない気持ちを、ことばにできる場所

ことばの庭

1 事業概要

ひとり親家庭や生活困窮世帯の不登校・孤立状態にある子どもたちを対象とした、日中の居場所事業です。食事や学習、野外活動を通して、さまざまな体験の機会をひろげ、異なる年齢の子どもたちとの関わりの中で、生活習慣を整えながら健やかな成長を支えます。こどもの特性や家庭状況に寄り添い、将来に向けた長期的な伴走支援を行う安心の拠点です。

2 今年度の利用データ(のべ人数)



3 こどもの声

朝、入室したら子どもたちは必ず「今日はどんなきもち？」のカードを書きます。書く内容はさまざま、ヒントとなるように、どんな気持ちがあるのかを示したカードも用意しています。「今日はこんな気分」とカードに書いたり、「これやってみたい」と自分から活動を提案する姿が見られるようになりました。クッキングや読書などの活動の中でも、心が動いたことを振り返る時間を大切にしています。その中で、「これ得意かも」「こんなことできた」と、自分を知っていく様子が見られるようになりました。安心できる場所の中で、子どもたちの世界は少しずつ広がっています。



4 体験活動と表現遊び

体験活動

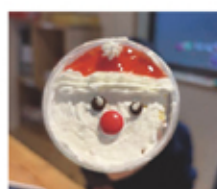
朝から「したいこと」を、子どもたちが提案してくることもあります。



これまでに行ってきた活動は、工作、絵の具、編み物、クレパス画、綿くり、クッキング、スイーツづくり、畑作業など、多岐にわたります。近隣の社会見学から始まり、少しずつ距離を延ばしながら遠足にも出かけました。出かける前と後には、取り組みと振り返りを必ず行うようにしています。

表現遊び

表現遊びは、手作業と重なる部分もありますが、大切にしている活動です。版画をしたり、消しゴムはんこを作ったり、大きな段ボールに絵の具で描いたりしています。絵の具やクレパスの色を選ぶことも大切にしています。また、楽器を鳴らしたり、ダンスをしたりすることもあります。体験活動と表現遊びは、人を知り、自分を知り、そして世の中を知ることにつながっていると感じています。「自分はこれ得意かも」「〇〇さん、こんな風に見えるんやー」「川って、ほんまに海とつながってるんだ」「鳥は魚をねらって食べるんだね」など、さまざまな気づきが生まれています。



5 安心して過ごせる場所

ことばの庭では、「安心して過ごせること」と「自分を表現できること」を大切にしながら活動を続けてきました。朝の気持ちカードやスタッフからの返事、学習や体験活動の積み重ねを通して、子どもたちが自分の気持ちに気づき、それを言葉や行動で表す機会を育んできました。また、工作や外遊び、遠足などの体験活動は、子どもたちが人や社会と出会い、自分を知る大切な時間となっています。関係性の面では、特定のスタッフだけでなく、他者とのつながりが広がっていく姿も見られ、安心の土台が少しずつ育ってきました。日々の小さなやりとりやユーモアのある関わりが、子どもたちの「ここにいていい」という感覚を支えています。今後も、この安心を土台に、一人ひとりのペースを大切にしながら関わりを続けていきます。

育ちを支える地域の拠点

児童育成支援拠点

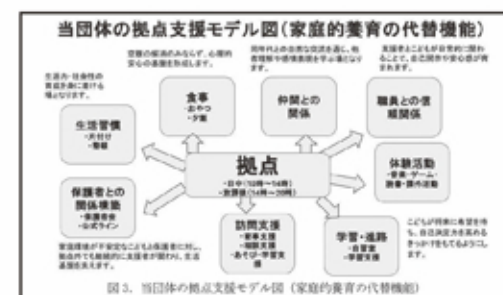
1 事業概要

家庭や学校以外でも安心して過ごせる場所が必要な子どもたちのための居場所として西宮市の委託を受けて運営しています。食事の提供や生活習慣の形成などを軸に、子どもと家庭の課題に寄り添った包括的な支援を実施する事業です。すべての子どもが健やかに育つことのできる環境づくりに取り組んでいます。



2 学校・行政・当団体の連携

こどもの最善の利益のためには、重層的かつ丁寧な支援が不可欠であるため、行政・学校・地域と密に連携しています。当団体は決定までの判断プロセスが短く、柔軟に、横断的に他機関と連携していることが特徴です。多様な専門職と共にチームとして活動することが、子どもと家族の孤立を防ぎ、子どもが力を取り戻すための包括的な支援につながります。



3 居場所を支える寄付者の皆さん

皆様の温かなご支援が、子どもたちの居場所を支える大きな力です。共に歩んでくださる皆様へ、改めて感謝申し上げます。



いつもは1人でするゲームも、ここではみんなでおいおいと盛り上がり、ぬいぐるみにも1つ1つ名前をつけてくれました。

こちらの居場所には、小さな中庭があります。少し気分転換に出たり、場所を大きく使って段ボールのお家作りをしたりしています。

室内遊具のおもちゃも多くの寄付をいただき、とても充実しています。天気の良い日には公園に出かけて体をいっぱい動かしています。

0歳から孤立しない社会へ

乳幼児支援

1 事業概要

ルーチェ広場

未就学の子どもとの暮らしの中での悩みや工夫（遊び・食事・病気等への対応）について、誰でも気軽に立ち寄り、相談できる場として、たねとしづくライブラリーで「ルーチェ広場」を月1回開催しました。保育士のスタッフが常駐し、手遊びや工作などを子どもと一緒に体験できる場にしました。



くるくる土曜日

シングルマザーの親子と一緒に参加できる時間を、月に一度、土曜日に開いてきました。平日は仕事があり、地域の親子向けの活動にはなかなか足を運べない方にもご参加いただくことができました。版画体験やクッキーづくりなど、手を動かしながら楽しめる時間を重ねるなかで、小学生の子どもたちも集まってくれました。



2 現状と課題

本事業は毎月開催してきましたが、来館者がいない月もあり、継続的な参加にはつながりにくい状況がありました。クッキーづくりや工作を実施した際には多くの親子が来館しました。パントリーやひとり親家庭対象のイベントなどでも繰り返し会う人が増えて、ゆるやかな関係性が芽生えました。

●ルーチェ広場：親9名/子ども12名

●くるくる土曜日：親7名/子ども12名

当初想定していた以上にアプローチが難しく、十分なリーチには至りませんでした。参加者はスタッフに子育てのしんどさをゆっくり相談することができ、リピートにつながりました。精神的なしんどさや発達特性などにより外出のハードルが高い家庭への働きかけには、より丁寧な導線づくりが必要であることが見えてきました。

また、平日の参加が難しいシングルマザーへの対応として土曜日開催（くるくる土曜日）は一定の効果がありましたが、当団体の食料支援の実施時間と重なることもあり、参加者が分散してしまう課題もありました。広報については、当団体のSNSやLINEでの発信が中心となっており、保健センターや行政、支援機関からの紹介は限定的でした。対象層へ確実につながる導線としては、まだ改善の余地があります。

ひとり親家庭のための野外活動

ふだんは家族だけでは出かけにくい自然の中での遊びやレジャーの機会として、子どもたちの好奇心がひらくようなプログラムを実施しました。

9月には芦屋の海浜公園でBBQを行い、海風を感じながら、親子でゆったりとした時間を過ごしました。2月には、大型遊具で思いきり遊べる屋内施設「ピュアハートキッズランド」に出かけ、子どもたちのいきいきとした姿が見られました。また高校生は、近くのらぼーとへ学生スタッフと出かけ、ウィンドウショッピングを楽しみながら、少し背伸びをした時間を過ごしました。こうした機会を通して、親子と一緒に過ごす時間が生まれるとともに、活動の中で保護者とスタッフの関係も、少しずつ深まってきました。



今後に向けた方向性

●シングルマザーの相談の場として、当団体の食料支援時の交流スペースを充実させ、相談機能やピアサポートの機能を深めていきます。また、子どもたちが参加できる体験の機会も、食料支援の場とあわせて実施していきます。

●親子支援については、当団体と協力関係にある子ども支援団体と連携することで支援を行い、支援の入り口を広げるとともに、当団体の取り組みをより多くの家庭に届けていきます。



※他団体と協働で開催する「移動図書館」の様子

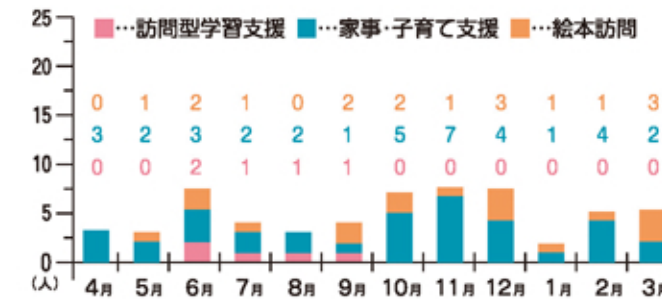
「訪問と居場所をつながる」ひとり親支援

訪問支援

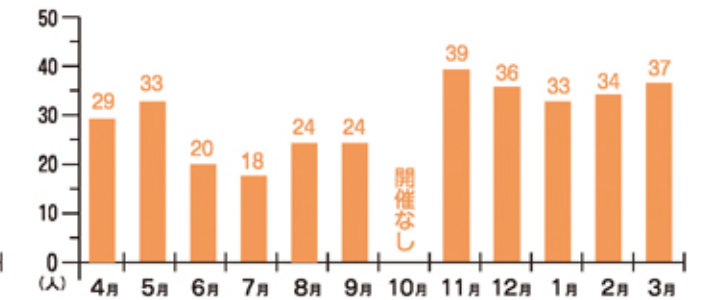
1 事業概要

「たねとしづく」の原点は、ひとり親家庭への訪問支援にあります。幾重もの困難を抱え、孤立しがちな親子に寄り添い、共に笑い合える瞬間を大切にしてきました。「助けて」と言える関係を築くことで、親の心の余裕は子どもの笑顔に繋がり、その笑顔がまた親を癒します。訪問やパントリーを通じて、独りで抱え込む育児を地域で支え合う輪へと繋げ、子どもたちが多くの大人に見守られ安心を感じられる日常を支えています。

訪問支援件数



パントリー支援家庭数



※ふれぼの、つどいばまんなか、ぶちだがしやさん、ライブラリー、計4箇所での合計数を記載

訪問型学習支援

経済的な理由等で塾や学校への通学が困難な子どもに対し、学習の遅れや進路の不安に寄り添います。単に正解を教えるのではなく、本人の小さな歩みを「認める」関わりを大切に、学習を通じて自分に自信を持てることを大切にしています。iPadやパソコンの貸し出しを行い、その利用方法についてなど親子と一緒に考える時間を設けました。



家事・子育て支援

清掃や調理、お子さんの遊び相手などを行います。ヤングケアラーのケアや虐待予防を目的としており、子どもたちが家事や世話に追われることなく、「こどもらしい時間」を過ごせる環境を整えます。今年度は学生スタッフと訪問することも多く、子ども達の遊び相手として喜ばれました。



月に一度、お米や食品、日用品を無料で配布しています。単なる物資支援に留まらず、配布時には親同士の交流や臨床心理士への相談ができる場も提供しています。子どもたちが学生スタッフと遊ぶ傍らで、保護者がホッと一息つきながら、生活の変化や悩みを共有できる繋がり作りも大切にしています。今年度は2団体（NPO法人にしのみや次世代育成支援協会・にじいろテラス）と協働し、3か所で配布することができました。



パントリー

絵本訪問

ボランティアと共に家庭を訪問し、絵本の読み聞かせや手遊びを通じて親子に寄り添います。孤立しがちな保護者が日頃の困りごとを話せる「SOSの窓口」になるとともに、子どもにとっては親以外の大人に甘え、心から頼ることができる安心の関係性を築いていきます。コープ共済の助成やチャリティサンタからご寄付いただいた本をプレゼントさせていただきました。



こどもたちの居場所は、たくさんの 応援によって支えられています。

🌸 寄付・物品寄付・企業協賛

たねとしずくの活動は、寄付者・企業・地域のみなさまの支えによって成り立っています。
一人ひとりの想いが重なり、こどもたちが安心して過ごせる場所が生まれています。

たねとしずくを支えてくださる「どろっぶす」



こどもは「たね」

自分の力で、自分のペースで目を出し、成長していきます。

おとなは「しずく」

強い勢いでたねを流してしまうことのないようにやさしくそそがれます。

たねとしずくは

「たね」が育つ土壌を耕し、こどもたちが安心してこどもらしくいられる環境をつくります。

たねとしずくの活動を応援して下さる「しずく」のみなさまを「どろっぶす」と呼んでいます。

「こどもがこどもらしくいられる環境」をつくる仲間です。

2025年度 寄付（どろっぶす）によるご支援

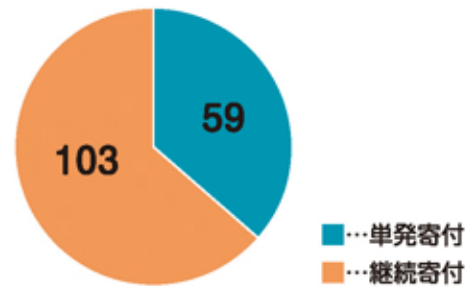
●単発寄付…59名

●継続寄付…103名

合計…162名

※「一箱本棚サポーター」54名を含みます

2025年度 寄付のうち分け（単位：人）



多くの方のご支援により、こどもたちの居場所づくりや訪問支援、学びの機会づくりを継続することができました。心より感謝申し上げます。

どろっぶす （支援者）の 声

一箱本棚サポーターRさん

スタッフのみなさまの問題意識や想いを知り「こういう方達だったらずっと続けていかれるだろう」と思いました。課題は日々あると思いますが、真摯に向き合っていられるだろうと信頼しています。

マンスリーサポーターMさん

こどもや若者が、評価や世の中の正解から離れて「ほっとできる」「本音を出せる」場所は、今の社会に欠かせない居場所だと思います。そんな場を丁寧につくり続けているたねとしずくの活動に、心からの敬意を抱いています。

単発寄付Hさん

たねとしずくさんの存在を知ることができ、目指す社会、取り組みなど全てに共感がなく、胸が熱くなりました。自身も目指す社会をあきらめず、微力ながら自分のいる場から考え行動をしていく思いで生きております。今後も、たねとしずくさんの活動を知って学びたいです。

物品寄付

お菓子の寄付

（おてらおやつくらぶさま、個人寄付者さま）



食材の寄付

（サヘルローズさま）



夏祭りの アマゾンほしいものリスト



本の寄付

（なつまつり、ブックサンタさま）



新拠点の 遊び道具のアマゾンほしいものリスト



新拠点の 絵の寄付



企業からの寄付

（明治安田生命さま、コープこうべさま、フランス屋製菓株式会社さま、大阪ガスさま）



ファミマフードドライブの 個人のご寄付



香風高校 ボランティアサークルからの寄付



ろくたんじ夏祭り

協賛協力 企業

- (株)早川設計事務所さま
- ファーストスタートさま

- はんこ屋さん21西宮店さま
- あしたこども診療所さま

出店協力 団体・企業

- (株)ウェルビーイング阪急阪神さま
- 特定非営利活動法人ソーシャルデザインワークスSOCIAL SQUARE西宮さま
- チームりんりんさま
- にしのみやポップアップライブラリーさま
- (株)日本旅行さま
- プライドプロジェクトさま
- 社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会さま
- 若者応援BANKさま

- MUJICA MUJICAさま
- 石田バンディさまほか2名
- NPO法人月と風とさま
- 認定NPO法人みやっこサポートさま
- 浜臨地区社会福祉協議会さま
- 浜臨自治連合会さま
- はまわきっこクラブ(浜臨地区子ども会)さま
- そらにくも地域活動支援センターさま

こどもたちの時間を、共につくってくださりありがとうございます

たねとしずくの活動は、行政の制度だけでは届かないところにいるこどもや若者に寄り添うための活動です。その活動を続けることができているのは、応援して下さるみなさまの存在があるからです。一つひとつのご支援が、こどもたちが安心して過ごせる時間を生み出しています。これからも、「こどもがこどもらしくいられる環境」をみなさまと共につくっていただければ嬉しく思います。

CITIZEN「シチズン・オブ・ザ・イヤー@」受賞

市民と共につくるこどもの居場所づくりが評価されました。

2025年、こどもサポートステーション・たねとしずくの活動が評価され、CITIZEN「シチズン・オブ・ザ・イヤー@」を受賞しました。地域のこどもたちの居場所づくりや家庭訪問など、見えにくい困難を抱える親子に寄り添う活動が評価されたものです。この賞は、日頃支えて下さる寄付者・ボランティア・地域の皆さまと共にいただいたものです。



2025年度ハイライト

1年の活動

2025年度は、企業・学校・地域との連携が広がり、こどもたちの居場所が地域の中へ大きく広がった一年となりました。

4月：企業とともに始まる新しい支援

- 初の企業連携として、PwC様の職員による中高生への3か月間の伴走支援を開始
- 株式会社パリミキ様・兵神装備株式会社様による「子どもたちにメガネを届けるプロジェクト」に参加（4月～翌3月）



当団体から20名、他団体と合わせて合計27名のお子さんにメガネを届けることができました。

子どもたちにメガネを届けるプロジェクト

5月：支援者と学び合う講座の開催

- 「一箱本棚サポーター募集キャンペーン」開始（5月12日～6月13日）
- 講座開催
「～子どもの権利に基づく～こども支援者のための連続講座」（5月31日）

6月：研究・地域とのつながりを広げる

- トライアルウィークで市内中学生2名を受け入れ
- 伊丹市でのひとり親サロンにて講師派遣（6月14日）
- NPO学会 第27回年次大会にて登壇（6月15日）
- 保育士向けブックトーク開催（6月21日）
- 甲南大学CHIIKI×GAKUSEI～マッチングプロジェクト2025～に参加（6月21日）

7月：活動の成果を社会へ発信

- JANPIA関西マッチング会 成果報告会にて登壇（7月24日）

8月：地域と出会う夏のイベント

- 講演会開催
「フランスのこどもと家族丸ごと支援の実際」（8月12日）
- 西宮市100周年記念イベント
「ららぽーと甲子園de盆踊り！」ブース出展（8月16日）
- 主催イベント
「ろくたんじ夏祭り～ゆうぐれ図書館」開催（8月30日）



講演会「フランスのこどもと家族丸ごと支援の実際」
安藤明子氏を講師に迎え、支援者・市民・議員・メディアの方々とともにフランスの支援について学びました。



ろくたんじ夏祭り～ゆうぐれ図書館
猛暑の中でしたが、来場者・ボランティア・出展者など約900名が参加し、本とおまつりが出会う時間となりました。

9月：学びと交流を深める秋のはじまり

- スタッフ研修会開催（9月5日・6日）
- 移動図書館として「みんなの食堂」へ参加（9月20日）
- 兵庫県立西宮今津高等学校 出張授業（9月16日・9月30日）
- 保育士向けブックトーク開催（9月3日）

10月：新しい居場所のスタート

- 児童育成支援拠点 開所（10月2日）
- 「ポップアップライブラリー」（西宮市主催）に参加（10月27日～11月9日）
- 兵庫県立西宮今津高等学校 出張授業（10月24日）
- 移動図書館として「のんびりひろば」へ参加（10月29日）



兵庫県立西宮今津高等学校 出張授業
1年生・3年生の生徒に向けて、「子どもの権利」と地域資源の活用について授業を行いました。



「ポップアップライブラリー」に参加
たねとしくらりライブラリーに西宮市の図書館の本が並びました。期間中、スタンプラリーが開催され、多くの方が訪れてくれました。

11月：地域の居場所とつながる活動

- オープンデイ・寄付者対象ブックトーク開催（11月9日）
- 保育士向けブックトーク開催（11月3日）
- 移動図書館として「高須みんな食堂」へ参加（11月23日）
- こどもフェスタ参加（11月29日）



3か所で移動図書館を開催

西宮で活動されている3団体の居場所に本を持って行き「移動図書館」を行いました。

12月：大学との連携による学び

- 神戸女学院大学 出張授業（12月12日）

1月：支援の輪を広げる新年の取り組み

- マンスリーサポーターキャンペーン開始（1月11日～2月28日）
- ライブラリーのホームページをリニューアル
- 学生ボランティア意識調査の報告を発表

2月：支援者へ活動を伝える

- 寄付者対象 活動報告会開催（2月1日）
- 「いのちとくらしの映画祭」ブース出展（2月11日）

3月：地域とともに未来を描く

- 市長への表敬訪問（3月2日）
- 西宮市100周年フィナーレイベント
「にのみや夢・未来フェスタ」ブース出展（3月8日）
- 2025年度 事業報告会開催（3月31日）



市長表敬訪問
シチズンオブザイヤーの受賞のご報告のため、市長を訪問。「こんな西宮にしたい」との思いをみんなで話しました。



にのみや夢・未来フェスタ
西宮ガーデンスの屋上でしおりづくりワークショップと移動図書館を実施。芝生で本を読むこどもたちの姿が広がりました。

メディア掲載・出演

2025年度もたくさんのメディアに取り上げていただきました。そのおかげで市民や関係団体さんから多くの声かけをいただきました。

- 5月 ●ベイコム「このまち夢いっぱい」
●神戸新聞「ことばの庭」について
- 6月 ●Kiss FM KOBE「Kiss SDGs TRY」
- 7月 ●読売新聞「ミライ実践帳」
- 8月 ●さくらFM「SakuつとLa・ら・Ra西宮木曜日」
●KISS FM「バンディ's What's Going On」
- 9月 ●朝日新聞「メガネの無償支援について」
- 10月 ●神戸新聞「10月からの新規事業について」
- 11月 ●KBS京都ラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」（ほっかほか今朝の聞くサプリ!）

こどもがこどもらしくいられる社会へ

ビジョン

すべてのこども達が尊厳を守られ、のびやかに育ち、
自分の人生を選ぶ社会の実現

VISION

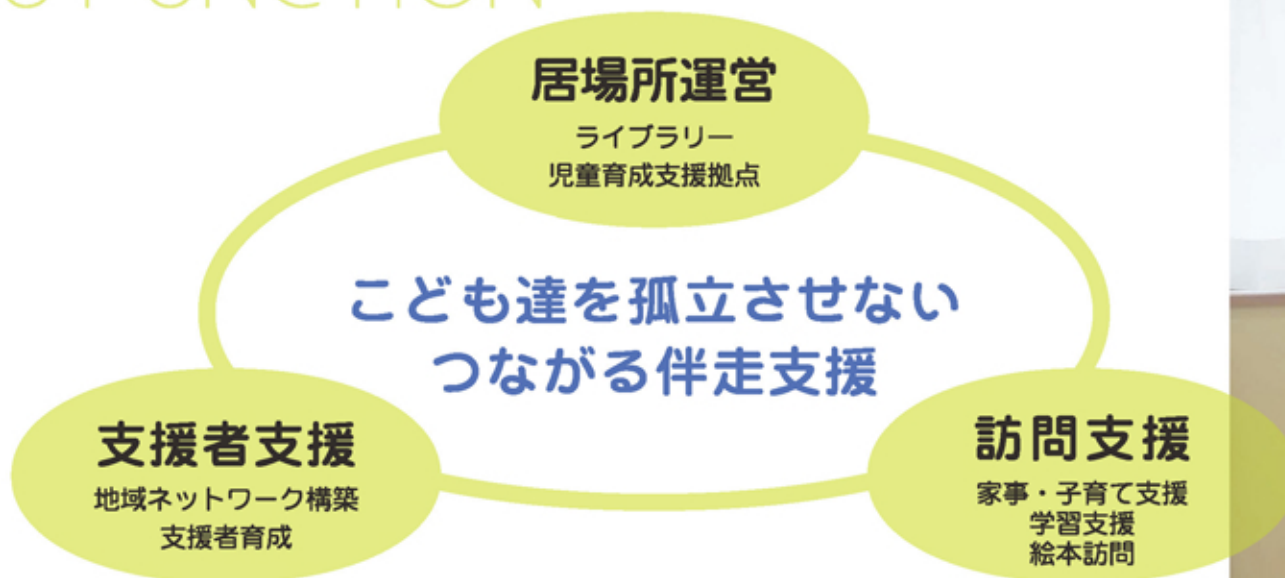
ミッション

こども達が安心して日々を過ごせる環境を整える

MISSION

たねとしずくの主な3つの機能

3 FUNCTION



特定非営利活動法人こどもサポートステーション・たねとしずく 2025年度 報告書

NPO法人こどもサポートステーション たねとしずく

たねとしずく



たねとしずくHP



Instagram



X



Facebook

● オフィス：〒662-0856 兵庫県西宮市城ヶ堀町2-22 早川総合ビル3F

● ライブラリー：〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町12-5

問い合わせ先：office@tanetosizuku.com

本報告書は、ユースセンター起業塾及び子供未来応援基金の助成を受けて作成しました。

設立

・2022年7月（2023年1月に法人化）